

大井町地域公共交通計画（案）に関するご意見と町の考え方

1 意見募集方法

- ・意見募集期間：令和4年1月11日（火）～1月24日（月）
- ・計画案の公表場所：大井町役場（2階企画財政課）、そうわ会館、生涯学習センター、保健福祉センター及び町ホームページ
- ・意見提出者数：3名（電子メールによる提出者数：1名、窓口への書面の提出者数：2名）
- ・主な意見件数：18件

2 大井町地域公共交通計画（案）に関するパブリックコメントにおけるご意見の概要と町の考え方

番号	意見箇所	意見の概要	町の考え方
1	地域公共交通を取り巻く課題について (5頁)	アンケート回答によると、町内ばかりでなく、町外へのアクセスを望む声も多い。今後、近隣自治体との連携も進め、様々な交通手段による県西地域に広がるアクセスを検討して欲しい。	ご意見のとおり、目標②「町外への移動を支援するアクセス強化」の達成に向け、各事業に取り組んでまいります。
2	地域公共交通の基本方針について (8頁)	町民の車の所有率は高く、一人一台という世帯もあり、これらの車が町内を走り回るのは環境への影響が大きい。出来るだけ公共交通を利用し、大気汚染防止の意義を高めることがSDGsに貢献できる。 また、安心、安全な公共交通こそが町民の願いでもあり、免許返納への理解も進めよう。	ご意見については、課題④「過度な車利用の抑制と地域の輸送資源の維持」でも述べており、その課題解決に向け、基本方針3「安心して公共交通を利用できる環境の整備」に基づき、各事業に取り組んでまいります。
3	公共交通網のあり方について (8頁)	近隣自治体が運行（予定）しているコミュニティバスの相互乗入れにより、広い範囲で生活できる便利な公共交通を実現して欲しい。また、おおいゆめバス、路線バス、タクシー（移送サービス含む）が相互に補完できるように円滑な利用方法を検討する。	まずは、町内の公共交通を充実させるべく、取り組みを進めておりますが、将来的には相互乗り入れも視野に入れ、近隣自治体との連携・協力により、広域アクセスの強化に留意し、利便性向上と効率的な運行をめざした公共交通網を構築してまいります。また、ご意見のとおり、目標⑤「地域全体で支える公共交通の構築」を達成するため、各公共交通機関の適切な役割分担のもと緊密に連携し、地域輸送資源の有効的な活用に努めてまいります。

番号	意見箇所	意見の概要	町の考え方
4	計画の目標について (11 頁)	目標①～⑤はわかりやすい内容になっている。運行ルート、ダイヤ、乗り継ぎがマップに示されれば、利用しやすく、大井町での生活はより便利になると考えられる。 社協で実施中の移送サービス、買い物バスも隙間の役割として重宝だと思う。	ご意見のとおり、実施事業の一つとして、「事業 10:公共交通マップの作成・配布」について令和 4 年度より取り組んでまいります。
5	実施事業について (12 頁)	ゆめの里や四季の里での観光（イベント）あるいは交流体験事業を活発にするには公共交通の利便性は必須条件だと思う。大井町への交通アクセスが便利になれば、町外からの通学、通勤者が増加することも考えられる。	来訪者にとっても便利な公共交通網となることで、交流体験事業や町の活性化につながると認識しておりますが、まずは、基本方針 1「町内を移動しやすい公共交通網の充実」や基本方針 2「町外へ移動しやすく、乗り継ぎしやすい公共交通網の構築」に基づき、町民の方が移動しやすく、乗継しやすい公共交通網の構築に努めてまいります。
6	実施事業について (12 頁)	お出かけモデルプラン、商業施設との連携、観光事業との併用プランは大井町の活性化に繋がる。今後も公共交通利用ワークショップを実施、町民の声を反映できるようにして欲しい。	ご意見のとおり、今後も町民の意見を反映させながら、当該計画・事業の推進を図ってまいります。
7	実施事業について (12 頁)	パーク＆ライドの考え方で、主要なバス停に駐車、駐輪できるスペースを確保することにより、便利なダイヤへの変更（帰りの時間の心配、空き時間をどう過ごすか、他の交通機関の乗り継ぎ等）といったフレキシブルな工夫も必要と思う。	今後の検討の参考とさせていただきます。
8	実施事業について (12 頁)	オンデマンド方式やデジタル化等を町民に周知しながら、当たり前前に公共交通が利用できる方法が望まれている。	ご意見のとおり、目標①「町内の移動支援の充実」の達成に向け、まずは、「おおいゆめバス」の普及を図り、さらに大井町にとって望ましい公共交通システムとなるよう、デマンド型交通等の導入の可能性について、今後検討してまいります。

番号	意見箇所	意見の概要	町の考え方
9	上位・関連計画について (33～36頁)	今後、都市マスタープランやその関連プランの見直し時期には、広域交流・観光の促進、高齢者や子どもにも安心・安全な移動手段としての交通体系は、環境保全にも寄与し、SDGsの観点からも必要なことだと考える。	今後、上位・関連計画の見直し内容に合わせて、必要に応じて当該計画の変更も検討してまいります。
10	上位・関連計画について (34頁)	上大井駅や相模金子駅の周辺環境整備については、通勤や通学の送迎車が駐停車できるスペースがあればJR利用者にとっても安心・安全が確保できる。 特に相模金子駅周辺は狭く、見通しの良くない道路に送迎車が止まっているため、歩行者はその間を縫って駅へ向かう状況が見受けられる。線路沿いの道路は間もなく完成するが、駅の西側道路は改善の余地が残る。利用者が微増している中で、その安全性は重要なことだと思う。	今後の検討の参考とさせていただきます。
11	上位・関連計画について (35頁)	大井町まち・ひと・しごと創生総合戦略にも公共交通の利便性の向上が掲げられ、御殿場線についても記載がある。鉄道の利便性向上への要望活動は、引き続き進める。特に、住民をはじめとする利用者の要望を反映できる協働のまちづくりに取り組むことは、住みやすい町を目指すのに当然である。	ご意見のとおり、実施事業の一つとして、「事業7：JR御殿場線の利便性向上と利用促進」について引き続き取り組んでまいります。
12	地域公共交通の現状分析について (37頁)	通学の移動手段のために路線バスが果たす役割は大きい。相和地区から中学校へ通学する支援として、継続するのは当然と言える。 一方で、土日などに見込まれる買い物については、町外へ出かけることも多いものの、公共交通が運行していないため、利用できないが、町外への移動は必然と言える。	ご意見のとおり、実施事業の一つとして、「事業1：大井町巡回バス「おおいゆめバス」の運行」について引き続き取り組んでまいります。 また、令和3年10月から土曜日運行を開始し、一定の利用が見込まれることから、今後も継続して運行してまいります。

番号	意見箇所	意見の概要	町の考え方
13	町民アンケート調査について (47～68 頁)	年齢によって利用目的や要望が分かれるが、生活に便利さや楽しみを見つけることが住みやすさに結び付くと考えられる。寄せられた様々な提案や要望に応えるように、今後の事業を実施することが求められる。	ご意見のとおり、今後も町民の意見を反映させながら、当該計画・事業の推進を図ってまいります。
14	おおいゆめバスについて	<p>「おおいゆめバス」について先日乗車体験をしました。</p> <p>(良かったこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 細い山道を回っていることに感心した。 ・ 食料品や生活雑貨の買物で利用 ・ 病院に通院できるので良い ・ バスの中での顔見知りとの会話ができるので良い ・ 運転手さんがやさしくて気配りがあり良い <p>(気になったこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 短縮ルートの利用者がいなかった ・ 基本ルートはもう少し利用者が多いと思ったが、意外と少なかった ・ 乗客を増やす工夫は常にしなければ、高齢者は減っていく（外出できなくなってくる） <p>(提案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 料金は距離により 100 円区間、200 円区間を設定 ・ タクシー券の発行（松田町では 75 歳以上の方等を対象に、初乗り分を補助） ・ いこいの村までの季節運行を直行便で運行して欲しい。さるすべり、河津桜、お山のひなまつりの時期に、町の観光名所として宣伝する価値があると思う。 	今後の検討の参考とさせていただきます。

番号	意見箇所	意見の概要	町の考え方
15	おおいゆめバスについて	アンケート結果を見ると、年齢層、目的、大井町町内での生活中心か、町外での生活によって回答が微妙に違うため、今後コースやダイヤを検討する時に工夫する必要も出てくると思う。今後の課題で、乗降者が多いバス停のみ止まるショートカットコースもあれば便利だと思う。	ご意見を参考にしながら、目標 ①「町内の移動支援の充実」の達成に向け、利用者のニーズや新たなニーズに合ったルートやダイヤとなるよう、引き続き交通会議において協議してまいります。 また、近隣自治体や各公共交通機関と緊密に連携し、地域輸送資源の有効的な活用に努めてまいります。
16	おおいゆめバスについて	相和地区の学校、幼稚園への送迎の負担が軽減できるなら、利用する子どもも増えるかもしれないため、通学、通勤等におおいゆめバスが活用できるよう、平地（金子・曾我地区）から丘陵地（相和地区）へのバス循環を検討する。	
17	おおいゆめバスについて	将来は地域ごとに使いやすいコース、目的別コース（観光、公共施設、買い物）、通学・通勤に特化したコース（鉄道駅を結ぶ）等、周辺自治体やバス会社、タクシー会社、鉄道会社等と連携を結び、住民にとって乗りたくなる公共交通になることを願っている。	
18	おおいゆめバスについて	大井町第6次総合計画の施策目標（P34）において、おおいゆめバスの利用者数の目標値は、横ばいとなっている。現在は不便な地域に、限られた予算で運行しようという発想と見受けられるため、利便性に欠ける。アンケート結果で利用先としてニーズが高い新松田駅とヤオマサと役場を1時間に1～2本定期運行する便を設定すれば、利用者、認知度共に高まる。便利な交通を整備すると、町内格差が広がる懸念はあると思うが、まず便利なところを作り、人を集め、税収を増やして格差縮小を目指すという作戦が正しいと思う。 また、新松田駅からの利便性を徹底的に高めることで、町外からの移住促進含め町の活性化に資すると思う。	